

生涯学習センターの設置と学習・文化事業等の運営についての一考察

衣 笠 賢 二

〔抄録〕

本論文では、生涯学習時代というブームを背景に、ポスト公民館の新たな施設として設置されている「生涯学習センター」について、「劇場都市」を宣言した兵庫県伊丹市を事例として、建設の構想段階から実際の運営状況にいたるまでを分析した。

そして、昨今の国の生涯学習政策の動向をふまえ、あるいはまた地方分権の視点から地方公共団体における今後の生涯学習施設の整備の方向性について考察した。

キーワード：劇場都市、生涯学習センター(ラストホール)、生涯学習施設、地方分権、フィットネス ラスタ

内容目次

はじめに

1. 生涯学習センターの構想

2. 生涯学習センターの運営

- ① 学習・文化・情報機能
- ② ライブラリー機能
- ③ デイサービス機能
- ④ フィットネス機能

おわりに

はじめに

伊丹市は昭和62年に「劇場都市」を宣言した。この劇場都市は、「伊丹市芸術・文化振興基金の設置、管理および処分に関する条例」⁽¹⁾の前文に『……21世紀に向けて伊丹市が新文化都市として文化のエネルギーが集散する施設を続々誕生させ、一層の躍進を試みるこのときにあたり、市民の文化創造力を最大限に発揮できる舞台をもつこのまちを見据え「劇場都市」とアピールし、内外の英知を結集し斬新な文化事業の展開を図る……』と記されている。このことは大阪国際空港の騒音問題が伊丹市の一番の課題であり、「騒音のまち」というイメージを払拭するために、文化面に力を入れてきたという事情もある。

ハード行政は、俗に言われるところのハコモノ行政という批判を受けることがある。しかし、文化へのニーズをふまえながらハード面を適切に整備していくことは重要であり、また文化の創造に寄与する多くの市民にとっても「場」としてのハード（建物）がなければ、ソフトを成長させる大きな条件の欠落につながるのである。

伊丹市で昭和63年度以降に設置された生涯学習関連施設は次に示す通りである。

＜開館年月日＞	＜施設名＞	＜特 徴＞
昭和63年11月	演劇ホール	ニューウェーブを主流とした演劇の公演
平成元年11月	工芸センター	全国公募の伊丹クラフト展
平成2年4月	サンシティホール	ガウディ風の尖塔、パイプオルガンを設置
平成2年11月	こども文化科学館	プラネタリウム室、宇宙について学べる展示室
平成2年11月	昆虫館	美しい花の咲き乱れる植物園に種々の蝶が舞う
平成3年12月	音楽ホール	「地球音楽」シリーズで世界の民族音楽を紹介
平成4年4月	生涯学習センター	フィットスネクラブ、図書館もある

そこで本論文では、平成4年4月に設置された複合施設である伊丹市立生涯学習センターについて、建設の構想段階から実際の運営状況をみることによって、地方公共団体が生涯学習施設をどのように整備していけばよいのかについて考察する。

1. 生涯学習センターの構想

21世紀に向けて地域社会は、高齢化社会への移行、高度情報化社会の到来、都市の成熟化という経験したことのない潮流を形づくっている。特に自由時間の増加にともなう余暇活動の増大とともに、市民の価値観の多様化と自己実現欲求の高まりが、生涯学習の場としての地域社会に様々なニーズを顕在化させている。

第1図 伊丹市南西部の小学校区



こうした状況にあつて、[第1図]に示すように伊丹市の南西部にある4小学校区（南小学校・笹原小学校・摂陽小学校・昆陽里小学校）は、早くから住宅地を主とした土地利用を呈し、その大半が住居専用地域に指定されるなど市街化の進展が著しく、伊丹市を代表する人口集積地区となっていたのである。

そのためこの地域を対象に伊丹市南西部地域総合開発計画が策定され、土地区画整理事業、道路、公園、下水道整備などの生活環境施設の整備が計画されているが、都市の成熟化にふさわしい豊かな快適さのあるまちづくりに向けての施設整備が遅れており、地域のもつ特性や個性を活かしたまちづくりが課題となっていた。

こうしたまちづくりを積極的に進めていくために、各小学校区ごとに設置された地域住民の代表者を主体とする住区会議で、住民アンケート調査が昭和60年には笹原小学校区、61年には南小学校区、63年には昆陽里小学校区と隣接する鈴原小学校区で実施され、まちづくりの課題や住民ニーズの高い公共施設の設置などの把握が行なわれたのである。

その結果、図書館、スポーツ施設の整備が上位を占めており、公民館等の社会教育施設の整備、スポーツ・レクリエーション施設の整備、さらには独居老人など地域での援助を必要とする高齢者への施策に住民の熱い期待が寄せられたのである。

また、昭和63年6月に実施された「生涯学習に関する市民調査」によると、90.7%の市民が生涯学習の必要性を感じており、その傾向は特に南部地域（南・笹原・摂陽・鈴原・稲野および伊丹小学校区の一部）が顕著であった。学習内容の希望レベルについての設問にも、入門よりやや程度の高いレベルを希望する数値が57.6%と高く、知的で内容の高いものを志向する傾向が明らかになったのである。

そこで昭和63年7月には建設推進懇話会が設置（委員19人）され、9回の審議を経て原案を策定し、同年12月に市長に建議したのである。この懇話会では、住民意識を把握し、住民の生活からの発想を尊重しつつ討議を展開したことにより、地域の暮らしの中で真に役立つ施設・機能等の方向が示された。

①学習・文化・情報機能（公民館機能）

公民館は地域レベルのコミュニティ施設として、中学校区単位での設置が望ましい。伊丹市では中央公民館の他に、分館的機能を果たしているセンターが東部、西部、南部、北部に各1カ所ずつ設置されているが、本地域内にも公民館分館の導入が望まれた。

②ライブラリー機能

現在、図書館は市内中央部に本館が1カ所、分室が3カ所設置されているが、本地域に図書館施設はなく、本館の利用も距離的に不便であった。このため住民意識調査でも図書館へのニーズは高く、また書籍量の増大、文化的活動志向の高まりの中にあつて、図書館機能のもつ役割は読書需要への対応のみならず、情報の提供、地域独自の資料の保存、さらには生涯学習への寄与など、ますます重要になってくることから、地域館レベルの図書館機能の導

入が望まれた。

③老人福祉機能

高齢化が進展する今日、老人が集い、憩える場づくりが大きな課題となっている。市内には老人の集いの場として、サンシティ計画に基づいた老人福祉センター（サンシティホール）が平成2年に開設されたが、本地域からは距離的に不便であった。もとより公民館機能を十分に利用していくことが前提で、他機能との複合化のなかで老人のニーズに対応した施設として、また地域福祉の核としての機能の充実が望まれた。

④スポーツ（フィットネス）機能

余暇時間の増大とともに、健康・スポーツ・レクリエーション志向はとみに高まっている。しかし、早くから市街化された本地域では、広大な用地を必要とする本格的なスポーツ施設や運動広場の設置が困難なため、当施設内に室内温水プールやアスレチックジムなどの健康保持施設の導入が望まれた。

2. 生涯学習センターの運営

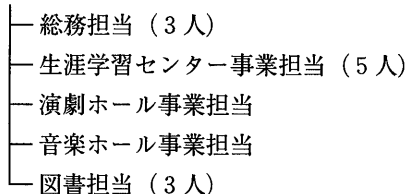
伊丹市立生涯学習センター（以下「センター」という）は、伊丹市が市域の南西部にあたる「南野」の地に建設した地下1階地上4階建ての鉄筋コンクリート造りの建物で、平成2年9月に着工、平成4年3月に竣工した。

センターの管理運営は、平成4年2月12日に設立した「財団法人伊丹市文化振興財団」に委託しているが、昭和63年11月オープンの市立演劇ホール（アイホール）と平成3年12月にオープンした市立音楽ホール（アイフォニックホール）も合わせて管理運営を委託している。

文化振興財団の組織は〔第2図〕に示す通りである。そのなかで常務理事は市教育委員会事務局の生涯学習部長が、また事務局長はセンターの館長の兼務となっている。総務担当は、センター、演劇ホール、音楽ホールの3施設に係る経理事務を統括している。

第2図 伊丹市文化振興財団組織図

理事長 — 副理事長 — 常務理事 — 事務局長



センターは学習・文化・情報機能、ライブラリー機能、デイサービス（老人福祉）機能、スポーツ（フィットネス）機能をあわせた複合施設として、幼児から高齢者までのあらゆる世代の人が利用することによって、生涯学習の推進と世代間のコミュニケーションの醸成および福祉の増進を目的とした、地域における生涯学習の中核施設として位置づけられている。

各機能ごとの事業内容については以下のとおりである。

①学習・文化・情報機能

<利用時間>平日（月、水～土曜日） 9時～21時（開館時間は22時まで）

日曜・祝日 9時～17時（ 〃 17時30分まで）

1階…エントランス、ロビー、学習室

2階…多目的ホール、視聴覚室、マイコン室、音楽練習室、会議室

3階…創作室、調理室、講座室、和室、児童室

学習の中心である講座、研修、会議、セミナーのできる講座室、会議室、学習室等や講演会、演奏会等あらゆる行事の利用のために舞台機能をもつ約300人収容できる多目的ホール、絵画、版画、工芸活動ができる創作室、コーラス、楽器演奏のできる音楽練習室、16台のパソコンを備えたマイコン室等を設け、市民がいつでも気軽に利用できる学習の場となっている。

センターの事業内容は、生涯学習および芸術・文化に関するイベント・セミナー等の開催と、文化および生涯学習に関する情報・資料の収集および提供である。

平成7年度実施の自主事業は次のとおりである。

イベントでは、文化フォーラム（5月）、アニメ主題歌コンサート（5月）、子どもから大人まで気軽に楽しめるコンサート（6月、12月）、浪曲名人会（8月）、人形劇（10月）、体育の日フェスティバル（10月）、新春囲碁大会（1月）、アニメ映画会等（4月、5月、7月、9月、1月、3月）、展示関係では、能面の世界（4月）、絵画展（6月）、ピーターラビット原書展（7月）、いけばな展（9月）、創作手工芸と着物展（10月）、点字の文字文化展（11月）、新春いけばな展（1月）などを実施した。

講座関係では、創造市民大学（文学、歴史、心理学等）7講座、40回、市民文化塾（英会話、茶道、華道、囲碁、手工芸等）26講座、192回、ワープロ講座（初級、中級、WINDOWS入門、WINDOWS体験等）22講座、91回、エアロビクス講座4講座、40回、料理講座（おけいこ、おかずクッキング、手作りお菓子等）8講座、240回とクリスマスケーキ作り1講座、3回、夏休み子ども教室（水泳、ワークショップ、シンクロナイズドスイミング等）5講座、28回で、計73講座実施した。

②ライブラリー機能（伊丹市立図書館南分館）

<利用時間>水～土曜日 9時30分～19時

日・月曜日 9時30分～17時

1 階…閲覧室，一般コーナー（12席），児童コーナー（14席），こどもお話室，
くつろぎのコーナー，AV ルーム（8席）

この図書館は伊丹市立図書館の分館として位置づけられ，本館から派遣された市職員3人と文化振興財団の職員3人の計6人で運営されている。ここはコンピューターのオンラインで本館と結ばれ，利用者端末機により当館蔵書のほか本館の蔵書や新刊書等もすぐに検索ができるようになっている。また，約64,000冊の蔵書〔第1表〕を保管する図書閲覧室，各種ニューメディアによる視聴覚設備としてAVライブラリー（ソフト730本）〔第2表〕を導入し，読書をとおしての自主的な学習の促進ならびに映像を通じての豊かな情操と創造力を育て，新しい学習・コミュニケーションの場をつくりだしている。南分館の利用状況は〔第3表〕に示す通りである。

第1表 南分館蔵書分類

単位：冊

総記	哲学 宗教	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工学 家事	産業 農業	芸術 体育	語学	文学	計
1,070	1,471	4,229	5,328	4,741	4,977	1,846	5,692	1,142	33,111	63,607

第2表 南分館AVソフト分類

単位：本

歴史	社会 科学	自然 科学	工学	芸術	文学	映画 (アニメを含む)	計
103	11	36	18	33	14	515	730

第3表 南分館利用状況

	H 4	H 5	H 6	H 7
利用者数（人）	240,757	206,638	175,641	177,611
利用登録者数（人）	5,506	3,241	3,781	4,535
（市内）	4,541	2,515	2,917	3,520
（市外）	965	726	864	1,015
貸出冊数（冊）	182,616	201,615	228,754	230,809
貸出者数（人）	53,481	57,063	64,981	66,495
AV 利用者数（人）	10,668	10,376	9,403	4,999

③デイサービス機能 (南野デイサービスセンター)

＜利用時間＞水～日曜日 9時～17時30分

3階…食堂, 厨房, 浴室, 特浴室, 相談室

この老人デイサービス運営事業は, 社会福祉法人伊丹市社会福祉事業団 (昭和63年2月1日設立) が市から委託を受けて実施しており, 社会福祉事業団へ派遣された市職員1人と福祉事業団職員2人, そして臨時職員3人の計6人で運営している。おおむね65歳以上の在宅の虚弱老人および座位の保てる寝たきり老人を対象に, 送迎用リフトバスを利用して各家庭からセンターまで送迎することにより, [第4表] の日課に示すように高齢者が日常生活に欠かすことのできない入浴, 給食, 日常動作訓練等のサービスを提供している。

そして高齢者の生活自立への助長, 社会的孤立感の解消, 心身機能の維持向上などを図り, 利用者の家族に対しては介護教室を開催し, 介護知識や老人の心理的特性などの知識の習得をととして, 家族の身体的, 精神的負担の軽減を図ろうとしている。

現在, 市内5カ所のデイサービスセンターでは対象者を地域割しており, 南野デイサービスセンターは南部と西部に居住している人を対象としている。市内デイサービスセンターの利用状況は [第5表] に示す通りである。

第4表 南野デイサービスセンターの日課

9:00	ミーティング	利用者の確認 一日のプログラムの確認
9:05	送迎車出発	おしほりの準備, 入浴の準備, レク・行事の準備 リフトバス1台で順次迎え 1便の利用者を出迎え
9:30	健康チェック	血圧, 体温, 脈拍および全身状態の観察 (入浴可否判定) 2便の利用者を出迎え
10:00	入浴 (特浴)	リフト浴で座って入浴 (特浴担当者) 更衣 (一般浴担当者) 3便の利用者を出迎え
11:00	集団リハビリ (レクリエーション)	日常動作訓練を兼ね週ごとに設定したプログラムを実施
11:40	食事	歌体操, 集団レクリエーション, 行事 食事の準備, 配膳, 介助
11:45		「全員でいただきます」 食事の下膳, 食事用エプロンの洗濯
13:00	音楽リハビリ (カラオケ)	カラオケの準備, 得意の歌をみんなで合唱
13:30	一般浴	待機者は談話, テレビ, ビデオ鑑賞 おやつ介助, お茶介助, 話相手, 行事の準備
14:50	歌体操	
15:00	送迎車出発	順次玄関まで見送り
16:30	ミーティング	一日の反省, ケース記録, 翌日の利用者の把握
17:30	業務終了	後片付け

第5表 市内デイサービスセンター利用状況

単位：人

	対象区域	H 4	H 5	H 6	H 7
南野デイサービスセンター	南部 西部	2,118	3,398	3,613	3,614
サンシティ ヌ(痴呆対象)	全市域	1,961	2,571	2,651	2,727
あそか苑 ヌ	中部 西部	1,335	2,631	3,049	3,119
中央 ヌ	中部 東部	—	2,972	3,513	3,347
荒牧 ヌ	北部	—	—	—	2,713

④フィットネス機能（フィットネス ラスタ）

＜利用時間＞月、水～土曜日 10時～21時30分

日曜・祝日 10時～17時

4階…アスレチックジム、エアロビクススタジオ、温水プール、サウナ室、

ジャグジー、シャワールーム

このフィットネス事業は、株式会社ミズノウエルネスに委託して実施しているもので、市民の日常的スポーツ活動の身近な施設として、また健康保持施設としての活用を図っており、ミズノウエルネス社員12人と臨時職員6人の計18人が変則勤務で運営している。

プールは20mの温水プールで、内面の一部は鏡張になっていて泳ぎながら音楽が聞こえる音響システム（水中スピーカー）を、またプール横にはストレス解消としての効果のあるジャグジーも設置している。

アスレチックジムには、健康増進の目的から高齢者でも無理のない安全性の高いトレーニングマシンを設置し、専任のインストラクターによる利用者の年齢、体力にあったメニューを作成して指導を行なっている。トレーニングマシンの種類等は〔第6表〕に示す通りである。

このフィットネスラスタの利用形態は定期使用と一時使用とがあり、使用種別と使用料システムは〔第7表〕に示す通りである。また、定期使用申込み者の使用開始までの事務処理は〔第8表〕に、オリエンテーション（説明会）の流れは〔第9表〕に示す通りである。

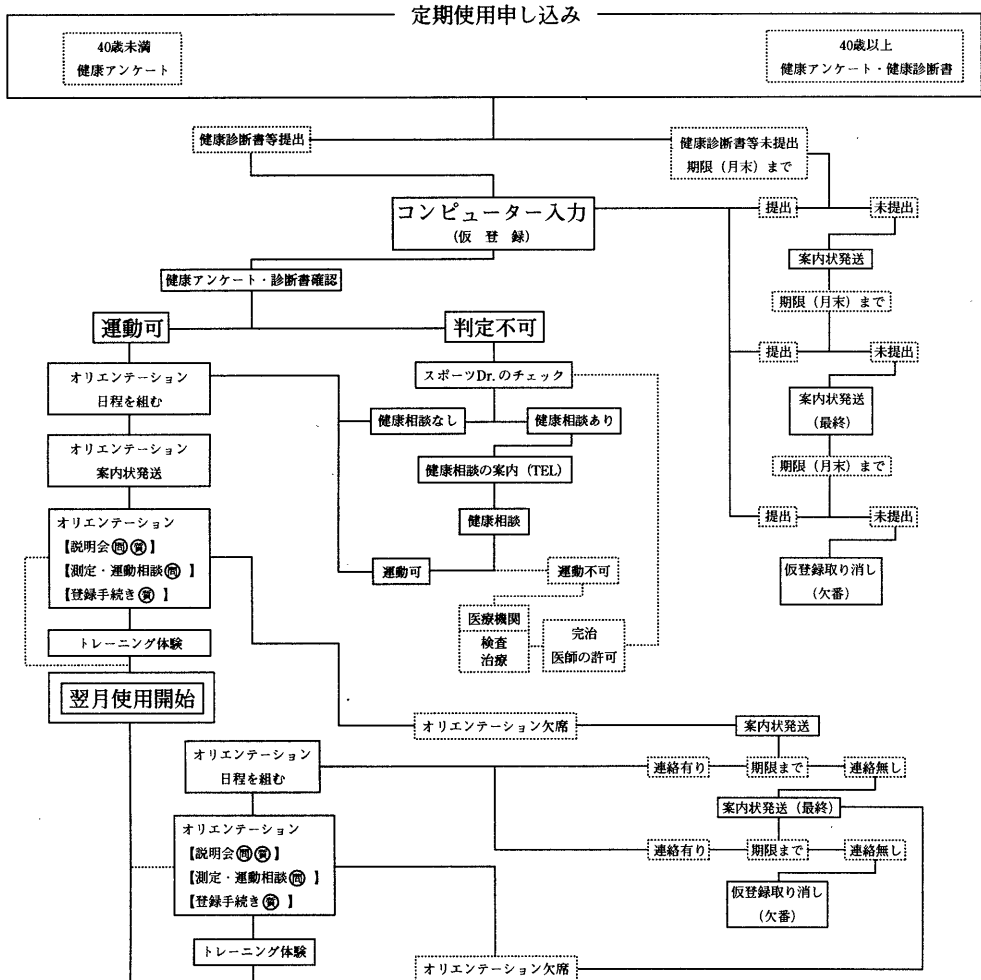
第6表 主なトレーニングマシンの種類

・エアロバイク 7台	・レッグカール	・ハイドラトータルパワー
・エアロクライム 3台	・レッグエクステンション	・フラットベンチ
・エクサージュグ 13台	・バイセップカール	・ダンベルセット
・エクサートラック 3台	・トライセッププレス	・ローマンベンチ
・コンビ 3台	・ロータリーチェスト	・ストレッチトレーナー
・エアロボート 2台	・ホリゾンタルロウ	・後屈台
・アブドミナルボート 2台	・クォッドプレス	

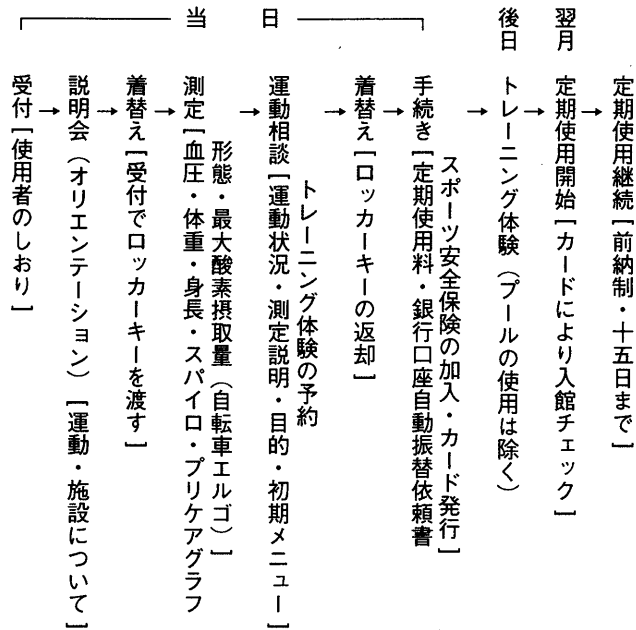
第7表 使用種別と使用料システム

使用種別	使用料		使用内容
定期 全日 使用	一般	月額 7,500円	時間の制限なし
	シルバー (満60才以上)	月額 5,000円	
定期 平日 使用	一般	月額 6,000円	土・日・祝を除いた平日の 10:00A.M.～5:30P.M.まで
	シルバー (満60才以上)	月額 4,000円	
一時 使用	一般	2,000円	時間の制限なし
		1,000円	10:00A.M.～12:00A.M.まで
	シルバー (満60才以上)	1,000円	時間の制限なし
		500円	10:00A.M.～12:00A.M.まで

第8表 定期使用申込みに係る事務手続き



第9表 オリエンテーションの流れ



運動は、エクサージュグでの歩行運動、エクサートラックでの軽い走運動、エアロバイクでの自転車こぎ等の有酸素運動を中心に行なっている。健康づくりには有酸素運動がよい理由として、運動レベルが低いことから安全性が高い、長時間運動を続けることができる、消費エネルギーが多くなる、脂肪の消費が多くなる、心臓や血管に無理な刺激を与えない、全身持久力が向上する等があげられる。

ジムでのトレーニングは次の6つのコースに分かれており、利用者が希望のコースを選択するシステムになっている。

<コース>

<運動内容>

A：健康づくりコース（健康維持増進運動）

- | | |
|--------------------|----------------|
| (1) 運動不足、ストレス解消コース | 運動所要量に基づく有酸素運動 |
| (2) 体力補強コース | 競技に適した各種運動 |
| (3) シルバーコース | 運動所要量に基づく有酸素運動 |

B：健康改善コース（運動療法）

- | | |
|----------------|---------------------|
| (4) シェイプアップコース | 脂肪を燃焼させる運動中心、筋力トレも |
| (5) 血圧が気になるコース | 軽度な有酸素運動 |
| (6) 関節が気になるコース | 関節の補強運動、プールやストレッチから |

また、全身を伸びやかにほぐすストレッチ体操や音楽にのって身体を動かし、汗を流し、心肺機能を高める効果のあるエアロビクスをおこなうスタジオには、音楽の強弱にあわせたボディソニックシステム（体感音響床）やカラーライトシステムも導入されている。その他スポーツドクターによる健康診断の実施や、栄養教室等健康づくりのための教室を随時開催している。

サービスプログラムとして、スタジオではストレッチ教室を週6回、リズム体操を週2回、エアロビクスを週2回、またプールではリズム水泳を週2回（初級、中級）、スイミングレッスンとして週4回（初心者向き他3種類）、アクアビクス週1回、アクアコンディショニング週1回実施している。平成8年7月～9月までの3カ月間のサービスプログラムは、[第10表] に示す通りである。

第10表 平成8年7月～9月のサービスプログラム

曜	日	月	水	木	金	土	日				
時間	場所	スタジオ	プール	スタジオ	プール	スタジオ	プール	スタジオ	プール	スタジオ	プール
10:00					10:30 WE		10:30 WE			10:30 エアロ 土屋 ストレッチ	
11:00	11:00 ストレッチ										
13:00											
14:00		14:00 WE	14:30 ストレッチ		14:00 リズム体操		14:00 おたのしみクラス				14:30 WE
15:00				15:30 WE	ストレッチ				15:00 ストレッチ		
16:00											
18:00											
19:00		19:00 WE	19:00 エアロ 月曜初1回のみ 川西						19:00 WE		
20:00	20:30 ストレッチ										

スタジオ
プログラム

⇒

エアロビクス
リズム体操
ストレッチ
おたのしみクラス

WE

⇐

リズム水泳
スイミングレッスン
アクアビクス
アクアコンディショニング
水中歩行

※都合により講師の変更などもあります。

これら各フロアーにおいては、多世代の年齢・体力に合わせた各種スポーツ教室、体力づくり、啓発イベントなどを開催するとともに、利用者が各自のペースに応じた体力づくりが行なえるように個人利用の場として提供している。

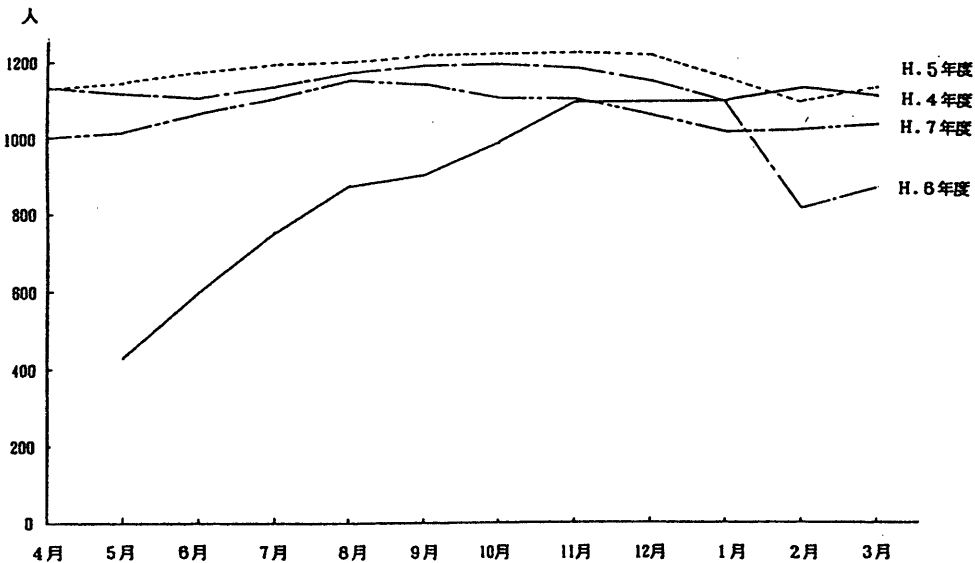
フィットネスラスタの定期使用者の登録・利用状況の考察

ここでは平成4年5月にオープンして以来、平成8年3月で4年間が経過したのをふまえ、その間の定期使用者の登録状況と利用状況について考察する。

定期使用者の登録状況は〔第3図〕に示す通りである。

登録状況の月平均は、初年度が900人台であったが、2年目以降は1,000人台を維持している。各年度の登録最多人数は、4年度が1,129人（2月）、5年度が1,222人（11月）、6年度が1,194人（9月）、7年度が1,150人（8月）となっている。逆に登録最少人数は、4年度が425人（5月）、5年度が1,095人（2月）、6年度が814人（2月）、7年度が999人（4月）である。4年度の5月はオープンした最初の月であり、6年度の2月は、1月17日（火）午前5時46分に発生したマグニチュード7.2の阪神・淡路大震災の影響によるもので、7年度の4月も2月の814人、3月の867人、4月の999人、5月の1,011人と震災後徐々に増加してきている途中段階のためである。ただ、5年度と比べて7年度は月平均にして約100人の減少となっている。この4年間では、最多登録者数、最少登録者数、月平均登録者数もすべて5年度が一番多くなっている。

第3図 定期使用者の登録状況



定期使用者の年代別構成（全体）は〔第11表〕に示す通りである。

初年度は目新しさもあってか、10・20歳代が21.7%と一番多く、以下40歳代が21.4%、30歳代が19.9%、50歳代が18.7%の順になっている。しかし、2年目以降には60歳代以上の高齢者の増加が著しく、特に60歳代は4年度の14.7%から7年度には26.3%と過去4年間では最多の数値を示している。逆に、30歳代～40歳代の働き盛りの年代層の減少が目立ち、特に30歳代は4年度の19.9%から7年度は12.0%へと7.9%も減少している。

定期使用者の年代別・男女別構成は〔第12表〕〔第13表〕に示す通りである。

年代別・男女別にみると、まず男性は全体の傾向と同じく60歳代以上の高齢者の増加が著し

く、60歳代では4年度の16.8%から7年度の28.2%へと11.4%、70歳代以上では4年度の3.8%から7年度の8.6%へと4.8%とそれぞれ増加している。また、全体と同じく30歳代の減少が著しく、4年度の24.0%から7年度には13.3%まで減少している。

一方、女性は全体と同様60歳代の増加が著しく、4年度の13.0%から7年度には24.9%へと11.9%も増加している。ただ、明らかに減少傾向を示しているのが40歳代と30歳代で、それぞれ6.4%と5.5%の減となっているが、男性の30歳代の10.7%ほど大幅な減少は示していない。

第11表 定期使用者の年代別構成

	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
4年度	21.7%	19.9%	21.4%	18.7%	14.7%	3.6%	100%
5年度	19.7%	16.4%	19.8%	20.7%	18.7%	4.7%	100%
6年度	21.7%	14.5%	17.0%	19.1%	22.7%	5.0%	100%
7年度	20.7%	12.0%	16.5%	18.2%	26.3%	6.3%	100%

第12表 定期使用者の年代別・男女別構成 (男)

	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
4年度	19.6%	24.0%	19.9%	15.9%	16.8%	3.8%	100%
5年度	16.6%	20.7%	19.0%	16.4%	21.0%	6.3%	100%
6年度	18.5%	16.7%	18.0%	15.0%	24.7%	7.1%	100%
7年度	18.0%	13.3%	16.8%	15.1%	28.2%	8.6%	100%

第13表 定期使用者の年代別・男女別構成 (女)

	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
4年度	23.4%	16.6%	22.6%	21.0%	13.0%	3.4%	100%
5年度	22.1%	13.1%	20.5%	24.0%	16.9%	3.4%	100%
6年度	24.3%	12.6%	16.3%	22.5%	21.1%	3.2%	100%
7年度	22.9%	11.1%	16.2%	20.6%	24.9%	4.4%	100%

定期使用者の一日平均利用者は〔第4図〕に示す通りである。

月平均の登録者は7年度は5年度と比べて約100人の減少となっているが、一日の利用者を見ると年々増加しており、7年度は282人で4年度の182人より逆に100人多くなっている。登

録者としては5年度当時の人数には達していないが、一日の利用者としては着実に増加しており、これは利用回数の増加によるものである。

定期使用者の利用回数は〔第5図〕に示す通りである。

月平均利用回数も初年度の5.3回から増加傾向にあり、7年度には6.7回となって6年度より1回も増加している。また、最多利用回数は7年度は6月の7.3回、最少は1月の6.2回となっている。この6.2回は、5年度の最多利用回数月である7月と同じ数値である。6年度1月の2.5回、2月の3.0回は震災の影響によるもので、各月とも12日しか営業ができなかったからである。

定期使用者の利用率は〔第6図〕に示す通りである。

月平均利用率も20.4%、22.5%、24.3%、と年々増加しており、7年度には26.4%となっている。月別利用率の最多月は、初年度の6月（25.4%）を除き、8月（23.9%、26.8%、28.4%）に記録している。毎月の利用率は、初年度の最初3か月間は23%を越え（最多25.4%）ていたが、8月から減少しはじめて12月には16.2%まで落ち込んだ。それ以降は10%台になることはなく、7年度では最少が12月の23.4%であった。

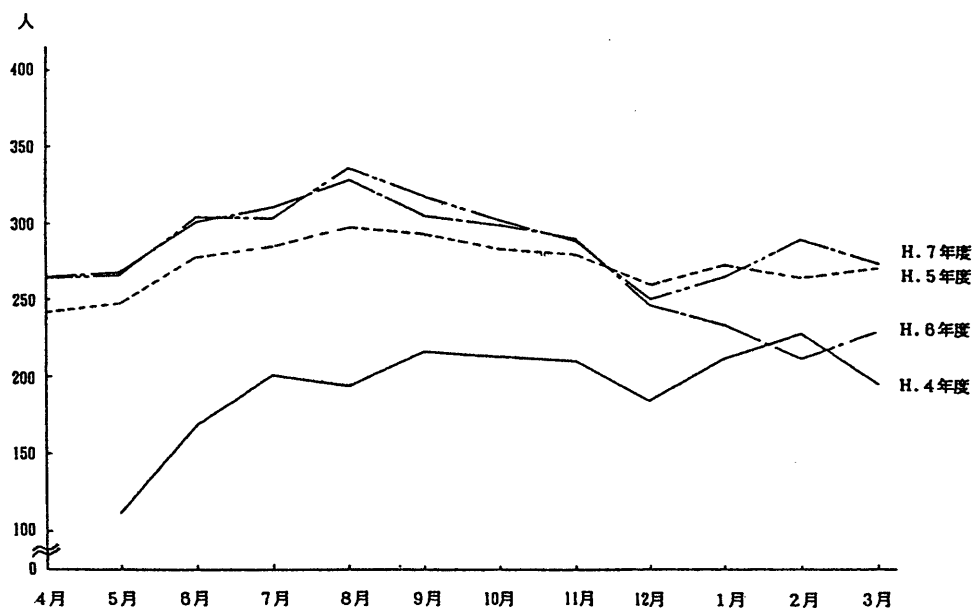
定期使用者に占めるシルバー（満60歳以上）の比率は〔第7図〕に示す通りである。

フィットネスクラブといえば、一般に若い人の体力づくりや筋力トレーニングの場と思われるがちであり、オープン当初は一般の占める比率が80%を越えていたが、徐々にシルバーの占める率が増加し、8年の2月には35.1%を占めるにいたっている。シルバーの占める率は、最初16%台であったが1年後（5年3月）には20%台に、その1年後（6年3月）には25%台に、そして1年後（7年2月）には30%台（32.3%）になり、8年2月は35%台（35.1%）になった。また30%台になってからは、7年8月の29.8%を除けば1年以上30%台を占めている。この29.8%という数字は、5年度の最多値（3月）の25.0%をはるかに越える数字である。

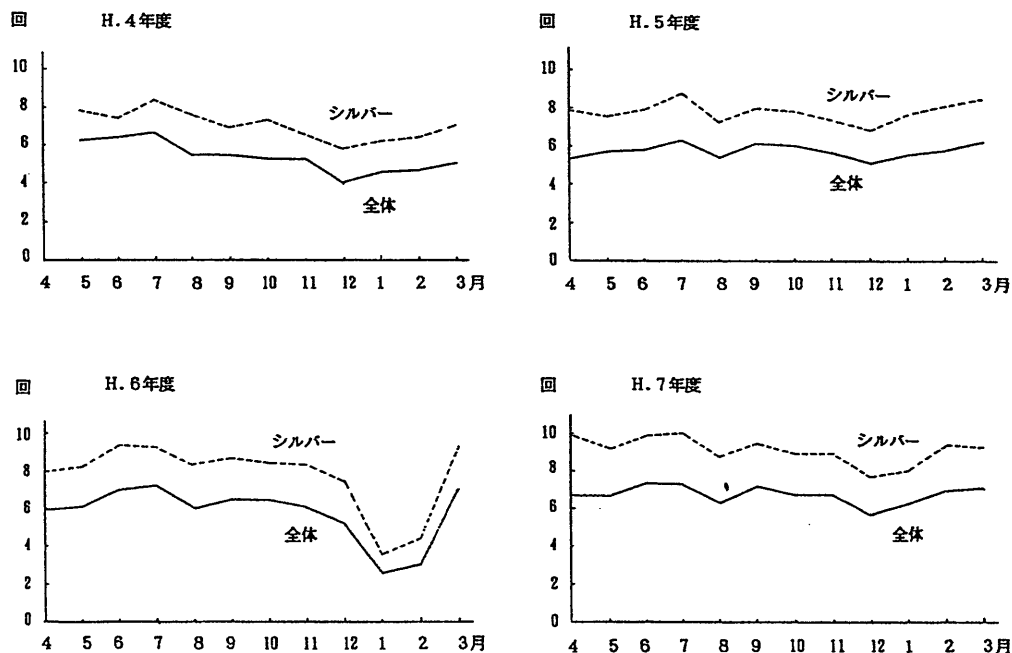
次に〔第5図〕からシルバーの月平均利用回数をみると、初年度から6.9回、7.7回、7.7回、9.0回と増加しており、7年度では全体の平均6.7回より2.3回も多くなっている。最多利用回数は7年度は4月と7月の9.9回、最少は12月の7.7回であった。

〔第6図〕からシルバーの月平均利用率をみると、最多値は初年度からずっと30%台であるが、4年度の30.7%（7月）と比べて7年度では39.5%（8月）となっており、約9%の増となっている。最少値は初年度の24.3%から28.5%、29.2%と増加し、7年度には32.3%（12月）となった。これは4年度の30.7%を越え、5年度の33.1%にせまる数値である。

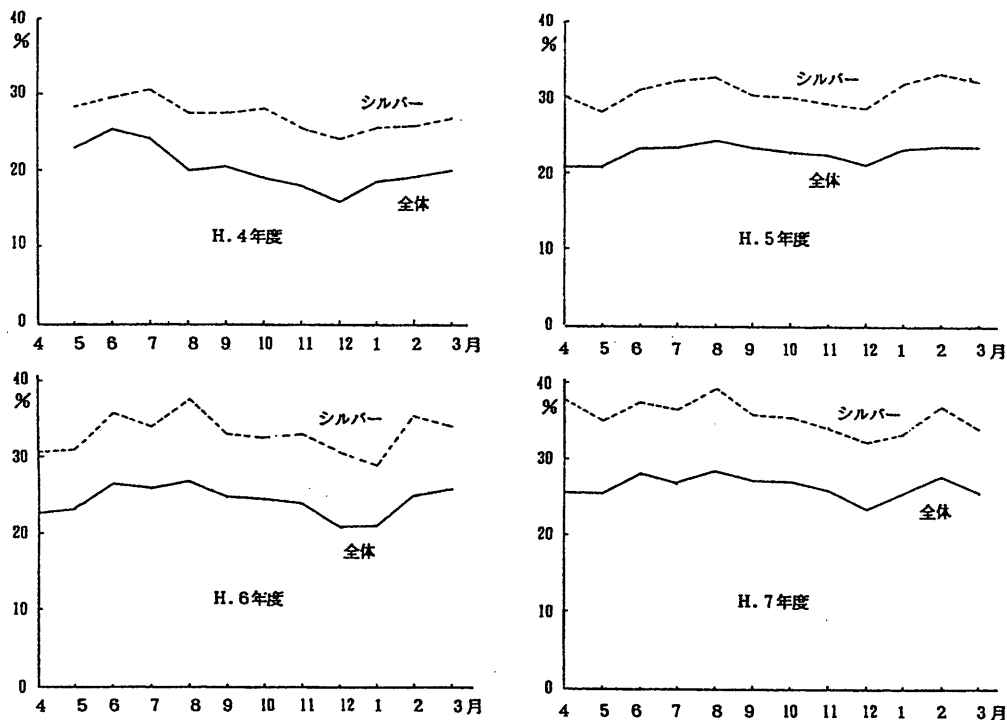
第4図 定期使用者の一日平均利用者



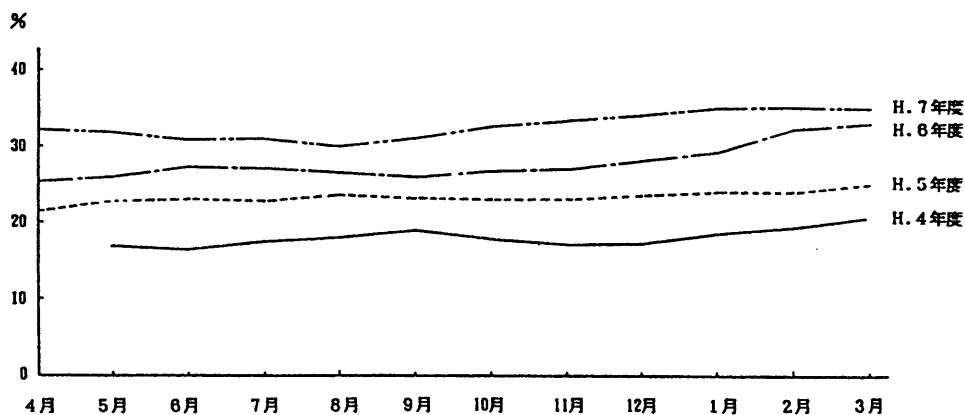
第5図 定期使用者の利用回数



第6図 定期使用者の利用率



第7図 定期使用者に占めるシルバーの比率



一時使用者の推移は〔第8図〕に示す通りである。

年間の使用者は、初年度の3,953人を最高に、2,640人、2,438人、1,877人と年々減少している。最多使用は4年度では8月の560人、7年度では同じく8月の218人で、最少使用は4年度では12月の203人、7年度ではおなじく12月の69人で、一日平均2.9人は4年間で最少であった。ちなみに一日平均の最多は4年度9月の21.4人であった。

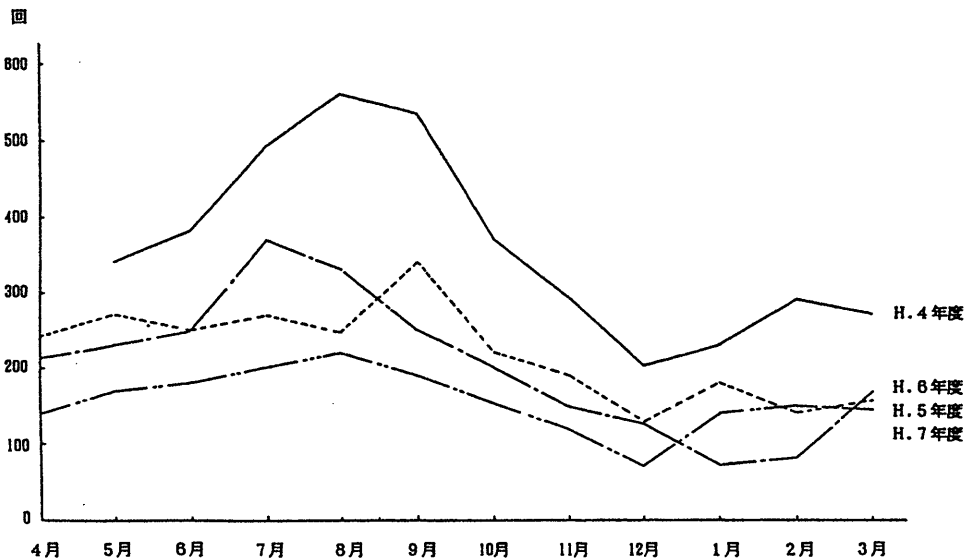
一時使用者の使用種別構成は〔第14表〕に示す通りである。

各年度とも一般（16歳～60歳未満）の午前（10時～12時まで利用可）が50%を占めているが、顕著なのは一般の全日（時間の制限なし）の減少傾向に比べて、シルバーの午前が増加傾向にあることである。これは〔第7表〕に示したように、定期使用の全日（時間の制限なし）が月額使用料5,000円、定期使用の平日（土・日・祝日を除いた平日の10時～17時30分まで利用可）が月額使用料4,000円となっており、一時使用の午前（10時～12時まで利用可）だと使用料が500円なので、定期の全日だと10回、定期の平日だと8回分に相当することになり、それならば午前中しか利用できなくても一時使用で申込んで、自分の都合の良い時に利用するのが得策だと考えたのかもしれない。

定期使用者の取消し率は〔第9図〕に示す通りである。

ここでは民間のフィットネスクラブでは当然のことである入会金あるいは入会のための登録料などという料金を徴収していない。そのためか気軽に入会できる反面、簡単に取消し（退会）することができるので、月平均で4年度の約40人から5年度の約80人となっている。

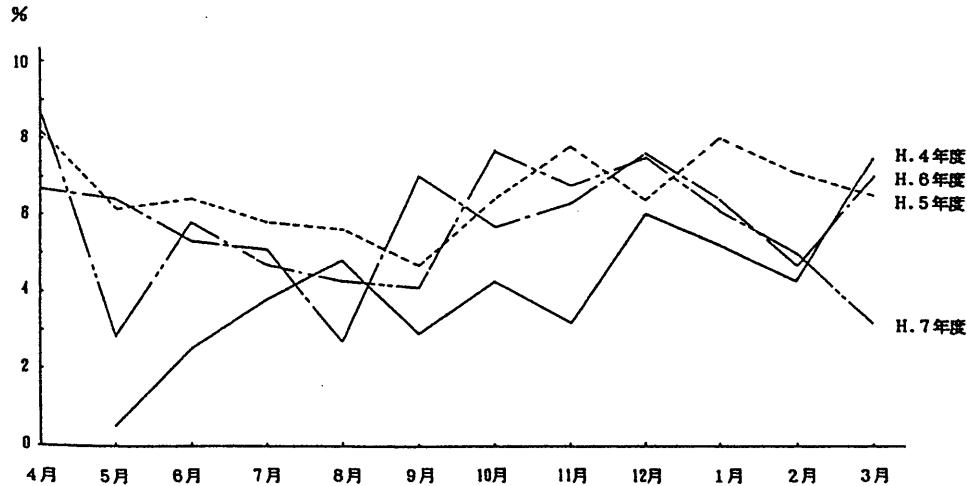
第8図 一時使用者の推移



第14表 一時使用者の使用種別構成

	一 般		シルバー	
	全 日	午 前	全 日	午 前
H 4	27.9%	51.9%	3.0%	17.2%
H 5	22.9%	54.2%	3.7%	19.2%
H 6	18.5%	54.6%	4.6%	22.3%
H 7	22.3%	51.6%	2.0%	24.1%
使用料	2,000円	1,000円	1,000円	500円

第 9 図 定期使用者の取消し率



以上のことから、フィットネスラスタでは施設の規模からみると利用率が高く、特に高齢者の利用頻度が高くなっている。また、定期使用者に占める高齢者の比率が年々高くなってきている。これは高齢者については使用料金を一般に比べて約34%も割引していることや健康づくりを主体とする施設であることが認知されはじめたものと考えられる。それとともに、公共施設におけるフィットネス事業が地域性にうまく適合し、また運営については民間に委託したことが相互に作用したのだと考えられる。

今後の課題としては、取消し率を低くするために指導員のマナー、技術・知識の向上により一層努めることと、常に整備されたトレーニング機器が配置されていることが利用者の定着や拡大に必要である。それゆえに年次計画に基づく機器の更新や新規機種を導入を積極的に図っていくことが必要である。

おわりに

生涯学習時代というブームを背景に、ポスト公民館の新たな施設として「生涯学習センター」が建設されている。その場合、実態としては公共施設の複合化の推進や学校のリニューアルの際に、総称として「生涯学習センター」という名称が使われているのである。

公民館は、事業を行なう専任の職員と公民館運営審議会を設置するように社会教育法で縛られており、同様に図書館も図書館法で、博物館も博物館法で縛られているが、生涯学習センターは法的根拠を持たない施設である。昨今はやりの「規制緩和」という言葉は、このような「縛り」から逃げられ、自由になるという意味を持っている。(すごく耳ざわりのよい言葉である。)

行政の各部局では各種の施設を所管しているが、それらの施設は当然のことながらそれぞれ独自の設置目的をもっている。しかし、それらの施設の多くは、実際には各地域での学習施設としても利用されていることが多い。けれども、それぞれ独自の設置目的をもっているがために利用には不十分と限界というものがある。その限界をなくし、施設の多目的な利用を促進し、利用範囲や利用時間を拡大して最大限の有効利用を図るために、各施設を複合化して「生涯学習センター」として位置づけようとするのである。

ところで最近、国における生涯学習政策の動きが急になってきている。平成7年9月22日の民間営利社会教育事業者に対する公民館の使用を認める法解釈を示した「文部省通知」(社会教育法における民間営利社会教育事業者に関する解釈について)、同年11月6日のいわゆる生涯学習振興法第6条による承認基準の告示第1号、平成8年4月12日の「広島県地域生涯学習振興基本構想」に対する初めての文部大臣・通産大臣による承認、そして同年4月24日の生涯学習審議会による2度目の答申「地域における生涯学習機会の充実方策について」である。

この答申は、「地域社会の中で様々な学習機会を提供している機関や施設の生涯学習機能の充実という視点から検討を加え」⁽⁴⁾ており、「機関や施設」として「大学をはじめとする高等教育機関」「小・中・高等学校など初等中等教育の諸学校」「社会教育・文化・スポーツ施設」「各省庁や企業の研究・研修のための施設」⁽⁵⁾の四つに類型化している。

その中の「社会教育・文化・スポーツ施設」についてみると、「社会教育・文化・スポーツ施設が常に地域住民のニーズに柔軟・敏速・的確にこたえていくことができるようにするために、「多様化・高度化する学習ニーズへの対応」と「組織運営の活性化」を当面の目標として、その達成に向けて必要な方策を強力に推進する必要がある。」⁽⁶⁾とし、具体的には公民館などの社会教育施設の財団運営や有料化を提案して、民間との連携を一層強力に打ち出していることである。⁽⁷⁾⁽⁸⁾

また、平成7年5月の「地方分権推進法」の制定で総理府に設置された地方分権推進委員会は、平成8年3月15日のくらしづくり部会中間報告「くらしづくりと自治の充実をめざして」

のなかで、社会教育に関して「文化・生涯学習については、教育委員会が所管するか、首長部局が所管するかは、当該自治体の主体的な判断に委ねる方向で、引き続き検討する⁽⁹⁾」と「改革の方向」を示し、「留意点」において「a. 文化・生涯学習分野における、教育委員会の果たすべき役割をどのように考えるか。b. 教育委員会の機能は学校教育に純化すべきではないかという意見があるが、これをどのように考えるか。また、教育委員会の活性化の方策をどのように考えればよいか。c. 図書館法、博物館法、社会教育法については、法制定当時に比べて社会経済情勢、国民の意識、自治体の意欲や取組みが変化していることを考え、法律そのものの存廃についても検討する必要があるのではないか。」⁽¹⁰⁾と重大な点を指摘している。

昭和21年7月の文部次官通牒「公民館の設置運営について」から50年をむかえた公民館は、今後より高度な事業や情報化等に対する新たな機能の充実等を積極的に推進していくための施設運営はどうあるべきか、地域社会における生涯学習社会構築のための生涯学習施設の整備はどうあるべきか、ということを合わせて当該自治体の主体的判断が試されている時期である。

参考文献

- (1) 伊丹市『伊丹市芸術・文化振興基金の設置、管理および処分に関する条例』昭和62年（1987年）
- (2) 伊丹市『伊丹市南西部地域総合開発計画策定調査報告書』昭和62年（1987年）
- (3) 伊丹市教育委員会『生涯学習に関する市民調査報告書』昭和63年（1988年）
- (4) 仮称南西部文化センター建設推進懇話会『建議書 — （仮称）南西部文化センター建設計画について — 』昭和63年（1988年）
- (5) 株式会社ミズノウエルネス『健康づくりへの葉』昭和60年（1985年）
- (6) 生涯学習審議会『地域における生涯学習機会の充実方策について（答申）』平成8年（1996年）
- (7) 地方分権推進委員会くらしづくり部会中間報告『くらしづくりと自治の充実をめざして』平成8年（1996年）

注

- (1) 1, 前文
- (2) 3, 1
- (3) 3, 9
- (4) 6, 1
- (5) 6, 3
- (6) 6, 19
- (7) 6, 26
- (8) 6, 20
- (9) 7, 20
- (10) 7, 21

[備考] 注の文献番号は、参考文献の通し番号と文献の引用頁数を示す。

(きぬがさ けんじ 兵庫県伊丹市教育委員会勤務) (1996年10月16日受理)

